

人間科学研究科 人間科学専攻

博士前期課程

教育研究上の目的

本研究科の博士前期課程は、人間科学の多様な分野における専門的かつ応用的思考や人間科学に関する専門知識及び技術を身に付け、現実的な問題解決能力を備えた高度な専門職業人として社会に貢献し得る、知性豊かな人材の育成を目的とする。

教育目標

本学の教育目標及び本研究科の教育研究上の目的等を踏まえ、人間科学研究科人間科学専攻博士前期課程では、多様化する社会の多様な要請に応える能力、すなわち社会の価値創造に貢献し得る高度な専門職業人としての能力を育てることを目標とする。

現在、我が国は少子高齢社会を迎えて人口の減少期に入り、経済・社会も発展や成長を目指す段階から持続可能な社会を目指す成熟期に入ろうとしている。その中で社会をイノベートするには、既存の特定分野のスペシャリストが提供する既存の価値観や方法を超えた、学際的な視点から新しい価値観や方法論を提供する能力が必要である。

本課程では人間科学の分野に関する専門的な知識と能力、社会が求める研究を発見し追求できる研究力、人と社会に対する柔軟で幅広い視野と主体的かつ総合的な判断力を持って、学際的な視点から社会に新しい価値を提案し、それを実現できる能力を身につけさせることを教育目標として定める。

ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）

本研究科博士前期課程のカリキュラムにおいて所定の単位を修得し、提出した修士論文が専攻内規に則って審査され合格と判定された者は、以下に掲げる能力を身につけていると判断され、修士(人間科学)の学位が授与される。

1. 自立した良識ある市民としての判断力と実践力
 - (1) 人と社会に対する柔軟で幅広い視野と、主体的かつ総合的な判断力を身につけている。
 - (2) 問題を的確に把握し解明する能力と技術力を身につけている。
2. 国際的感性とコミュニケーション能力
 - (1) 実践的に課題解決策を提案できる専門職業人としての能力を身につけている。
3. 時代の課題と社会の要請に応えた専門的知識と技能
 - (1) 人間科学の分野に関する修士として必要な専門知識を身につけている。

カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

本研究科博士前期課程では、人間科学のそれぞれの専門分野において、自立して研究活動を行うに足る研究能力を修得させることを目標とする。そして、その基盤となる豊かな学識を培う教育のうえに、自ら研究課題を設定し、研究活動を実施する等、学生の創造力や自立力を磨く教育を行うとともに、研究活動の企画や管理等の運営管理能力を高める教育を行うこととする。こうした教育目標を達成するために、以下のカリキュラム・ポリシーを設定している。

1. 教育課程の編成・実施
 - (1) 社会の変化に対応し得る統合された知の基盤を与えるため、他の研究領域、他の専門分野の開講する講義科目を履修できるように柔軟なカリキュラムを設定している。
 - (2) 各専門分野における問題を的確に把握し解明する能力と技術を身につけさせるため、「人間科学特別研究(演習)」を必修とし、指導教授による指導を密にし、自主的な学びを促す。
 - (3) 人間科学研究領域においては「人間科学事例研究」を必修とし、修士論文の課題を設定し修士論

文を制作する前段階として文献研究、現場調査、学会発表等の研究指導を行う。そして、理論的知識を基礎として、実際にそれらを応用する能力と課題に対する柔軟な思考能力や深い洞察力に基づく主体的な行動力を身につけさせる。

- (4) 臨床心理学研究領域においては修士論文の課題を設定し修士論文を制作する前段階として文献研究を通じた理論的基礎に根ざした現場調査、学会発表等の研究指導を行う。さらに臨床心理士、公認心理師など臨床心理技術を活用する専門職を目指して臨床実習科目群と専門職の資格取得に関わる科目を履修し、実践的教育を通して、実際にそれらを応用する能力と課題に対する柔軟な思考能力や深い洞察力に基づく主体的な行動力を身につけさせる。
- (5) TA(ティーチング・アシスタント)に就くことで、教育者として教育能力を高める経験を積む機会を用意する。

2. 教育の方法と評価

- (1) 研究指導は指導教授のもとでの演習を基本として行われ、専門分野の知識を深め、技能を修得するよう支援する。その上で、柔軟性のあるカリキュラムによって関連分野の複数の教員による多様な指導が受けられ、自主的に学問する能力を磨くことができる。
- (2) 徹底した個別指導により、独創的な発想に立った研究と、その成果に基づく論文の完成へと導く。
- (3) 計画・遂行・発表を含む修士論文研究の中間審査、及び本審査を介して、研究課題解決能力とプレゼンテーション・コミュニケーション能力の評価を行う。これらの評価は、公正性と厳格性を保つため、複数の専門教員で実施している。

アドミッション・ポリシー（入学者受入の方針）

1. 大学院教育によって培う能力

人間科学研究領域

- (1) 人間を身体や心理、社会という観点から実証的に分析する能力、そして得た知見を応用し現代社会に還元する能力を養成する。

臨床心理学研究領域

- (1) 研究から得られた科学的知見を現代社会に還元する能力と、それに根ざした臨床心理の実務能力を徹底したスーパービジョン・システムと少人数教育を通して養成する。

2. 本専攻の求める入学者

人間科学研究領域

- (1) 人間及び人間社会に関する深い関心を有する人
- (2) 人間科学(心理学、健康科学、地域社会学等)に関連する基礎知識を学部卒業程度に備えた人
- (3) 福祉や他者支援に意欲を有する人

臨床心理学研究領域

- (1) 人間及び人間社会に関する深い関心を有する人
- (2) 臨床心理学及び臨床心理技術の習得を目指す学習を可能とする学部卒業同等の臨床心理学、心理学、関連科目の基礎知識を備えた人
- (3) 臨床心理士、公認心理師などの専門職として個人の福祉と社会の発展への貢献に意欲を有する人

3. 大学までの能力に対する評価(選抜方法)

人間科学研究領域博士前期課程では、入学試験を通じて、人間科学に関連した基礎知識や語学力を備え、人間科学に関する深い関心を有する学生を受け入れる。

臨床心理学研究領域博士前期課程では、入学試験を通じて、臨床心理学の専門・基礎知識や語学力を備え、臨床心理士、公認心理師などの資格取得への意欲を有する学生を受け入れる。

人間科学研究科 人間科学専攻

博士後期課程

教育研究上の目的

本研究科の博士後期課程は、博士前期課程が目的として掲げる人間科学的思考、専門知識及び技術をさらに向上させ、優れた創造的研究及び教育活動を行うことができ、多様な社会の要請に応じて社会の価値創造に貢献し得る知的人材の育成を目的とする。

教育目標

本学の教育目標及び本研究科の教育研究上の目的等を踏まえ、人間科学研究科人間科学専攻博士後期課程では、人間科学の分野に関する博士として必要な高度な専門知識と専門能力を駆使して、多様な社会の要請に応じて社会の価値創造に貢献する能力を育てることを目指す。

現在、我が国は世界に先駆けて超少子高齢社会を迎えている。また、世界的に経済成長が停滞し、どのような政策や対策が適切なのか、人類史上にお手本がない困難な事態に直面していると言える。こうした状況においては、既存の価値観や方法では人間の幸福のあり方を提案できない事態が訪れることが予想される。

本課程では博士号取得者に対して、既存の価値観や方法論による閉塞性を打破して、新しい人間の幸福のあり方、すなわち新しい価値観を社会に提供できるように、人と社会に対する柔軟で幅広い視野と、主体的かつ総合的に社会が求めることを課題として設定できる判断力、さらに研究活動を推進できる創造力とその成果を社会に周知し新しい世論形成の力となれる発信力を身につけさせることを教育目標として定める。

ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）

本研究科博士後期課程のカリキュラムにおいて所定の単位を修得し、提出した博士論文が専攻内規に則って審査され合格と判定された者は、以下に掲げる能力を身につけていると判断され、博士（人間科学）の学位が授与される。

1. 自立した良識ある市民としての判断力と実践力

- (1) 人と社会に対する柔軟で幅広い視野と、主体的かつ総合的な判断力を身につけている。
- (2) 自立して研究課題を設定し、研究活動を推進できる創造力及び自立力を身につけている。

2. 国際的感性とコミュニケーション能力

- (1) 多様な社会の要請に応じて社会の価値創造に貢献し得る高度な専門職業人としての能力を身につけている。

3. 時代の課題と社会の要請に応えた専門的知識と技能

- (1) 人間科学または臨床心理学の分野に関する博士として必要な高度な専門知識を身につけている。
- (2) 研究活動を通じた企画・運営・管理能力を身につけている。

カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

本研究科博士後期課程では、それぞれの専門分野において、研究者として自立できる幅広い高度な専門的知識と研究手法・研究遂行能力、創造性豊かな優れた研究・開発能力を持つ研究者等の育成を目的とするため、以下のカリキュラム・ポリシーを設定している。

1. 教育課程の編成・実施

- (1) 「人間科学特殊研究（演習）」を必修とし、後期課程の全年次において独創的な優れた研究を自立して遂行し、成果を公表する能力と技術を陶冶し、博士論文の完成へと導く。
- (2) 「文献研究」「企画研究」「課題研究」「実践研究」を各半期の演習と定めてこれを必修とし、段階的

に高度な専門的研究の遂行を促し、研究及び教育を指導する能力と技術を実践的に体得することを目標とする。

- (3) 研究課題に関する文献(英語を中心とする学術論文、外国語書物等)の講読により先行研究に学び、問題を明確化するため、「文献研究」を必修とする。
- (4) 定めた研究課題に対する方法の選択、企画書作成等の実行、訓練を目的として、「企画研究」を必修とする。
- (5) 企画に沿って実験及び調査等によってデータを収集し、解析する能力を身につけさせるため、「課題研究」を必修とする。
- (6) 実践力を重視する観点から、他研究機関との研究交流及び研究課題との関連での現場視察、リサーチ、調査等の研究を目的として、「実践研究」を必修とする。
- (7) TA(ティーチング・アシスタント)に就くことで、教育者として教育能力を高める経験を積む機会を用意する。

2. 教育の方法と評価

- (1) 研究指導は指導教授のもとでの演習を基本として行われ、専門分野の知識を深め、技能を修得するよう支援する。その上で、柔軟性のあるカリキュラムによって関連分野の複数の教員による多様な指導が受けられ、自主的に学問する能力を磨くことができる。
- (2) 徹底した個別指導により、独創的な発想に立った研究と、その成果に基づく論文の完成へと導く。
- (3) 計画・遂行・発表を含む博士論文研究の中間審査、及び本審査を介して、研究課題解決能力とプレゼンテーション・コミュニケーション能力の評価を行っている。これらの評価は、公正性と厳格性を保つため、複数の専門教員で実施する。

アドミッション・ポリシー (入学者受入の方針)

1. 大学院教育によって培う能力

人間科学研究領域

- (1) 人間を身体や心理、社会という観点から実証的に分析する能力、そうして得た知見を応用し現代社会に還元する能力を獲得する。そして、研究機関のみならず、教育機関・企業・行政における人間科学の専門家を育成する。

臨床心理学研究領域

- (1) 高度な研究能力と臨床実践力を培い、臨床心理学における自立した研究者、及び心理臨床家の指導者を育成する。

2. 本専攻の求める入学者

人間科学研究領域

- (1) 人間及び人間社会に関する深い関心を有する人
- (2) 人間科学(心理学、健康科学、地域社会学等)に関連する博士前期課程修了程度の高い学識と技術を有する人
- (3) 社会の要請に応え、新たな価値を創造することに対して意欲を有する人

臨床心理学研究領域

- (1) 人間に関する深い関心と博士前期課程修了程度の学力、援助能力を有する人
- (2) 人間の福祉と臨床心理学への深い関心を有し、将来、それぞれの実践領域における指導者又は研究者を目指す学習を可能とする研究・実践能力と意欲を有している人

3. 博士前期課程までの能力に対する評価(選抜方法)

人間科学研究領域博士後期課程の各分野では、入学試験を通じて、人間科学に対する深い関心を有し、人間科学に関する専門的思考・学識と高い技術を有する学生を受け入れる。

臨床心理学研究領域博士後期課程では、入学試験を通じて、人間に対する深い関心を有し、臨床心理学的思考・研究能力・援助能力を有する学生を受け入れる。